

産学連携を担う若手人材育成 に関する実証的研究

知的財産マネジメント研究会 活動報告
(文部科学省 平成13年度 21世紀型産学連携
手法の構築に係るモデル事業)

隅 藏 康 一

政策研究大学院大学助教授
東京大学先端科学技術研究センター客員研究員

sumikura@grips.ac.jp

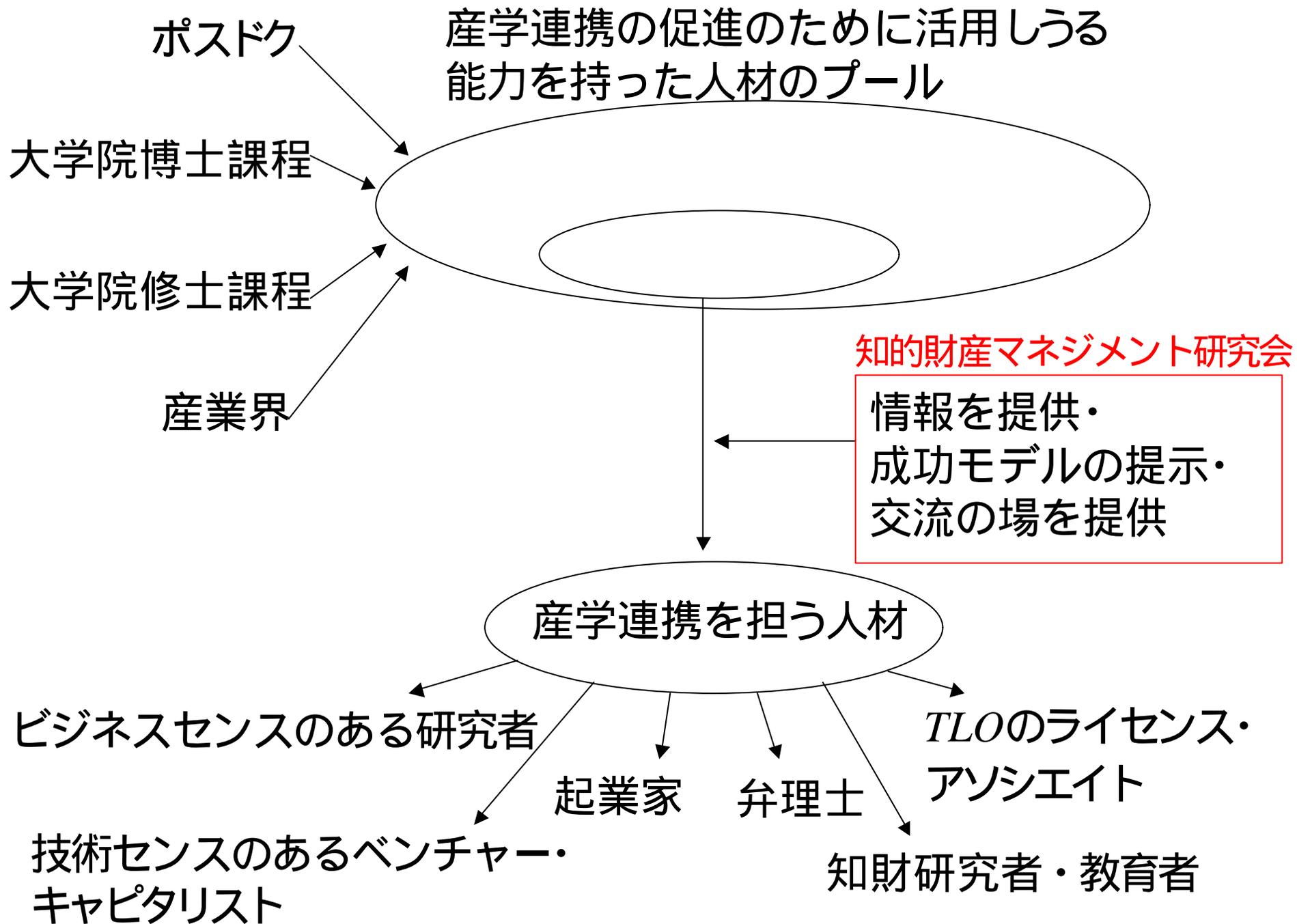
知的財産マネジメント研究会

(Society for Management of Intellectual Properties: smips)

- 毎月一回、土曜日に東大先端研講堂・小会議室にて開催。
- 2000年度にパイロット・プログラムとして開催したものを、2001年度に拡大。2002年5月で26回目となる。
- 参加者の平均人数(6,7,8,9,10,12月の平均値)
22名(2001年) 69名(2002年)
- 2002年4月の参加者136名
- メーリングリスト参加者 328名(2002年5月8日現在)

知的財産マネジメント研究会の背景

- 知的財産の取得と活用、大学から産業界への技術移転、といった分野では、技術・ビジネス・法律を幅広く身につけた人材が必要。
- 現在、人材は徹底的に不足している。
- ポストク1万人計画の成果として、理工系の高度な専門知識を持つ人材が増加してきた。若手企業人の雇用流動性も向上してきた。
- 産業界の流動性も以前より増し、ビジネス経験のある人材を知的財産・産学連携分野に誘導しやすくなってきた。
- 産学連携の現場において、若手人材の関心を引くに足る成果が上がってきた。



知的財産マネジメント研究会 2001年度

- ライセンス・アソシエイト分科会(山本貴史)
ライセンス・アソシエイトになることを希望する学生を対象を
限定
- 基礎セッション
特許法及び関連法の演繹的学習(戸次一夫)
: オリジナルテキスト
特許流通の基礎(隅藏康一)
: 工業所有権標準テキスト(流通編)
- 全体セッション(招待スピーチ)
: 成功モデル・キャリアモデルの提示
- バイオ分科会(隅藏康一)
- 技術移転事例討論分科会(渡部俊也)

ライセンス・アソシエイト分科会

- 企業を見るメガネ
組織図・社史・沿革などから、事業戦略を見抜く方法
- 技術を見る
特許可能性・権利範囲・市場性
ケーススタディー
- 契約のプレゼンテーション
ロールプレイ形式で契約交渉を行う
- 学生コアメンバー 12名の進路
ライセンス・アソシエイト / 公的研究機関特許戦略担当者 / 民間企業知財部 / 知的財産の研究・教育者 / インキュベーション企業の研究者 / 官公庁 など

全体セッション

- 4月 錆びない銀の開発(フルヤ金属 上野崇氏)
- 5月 知的資産と経営戦略(ビジネスIPR 伊原智人氏、柴田英寿氏)
- 6月 フランスにおける産学連携(フランスCNRS 野原博淳氏) / 地域活性化のために必要な機能とは?(NTTデータ経営研究所 廣瀬弥生氏)
- 7月 バイオ企業のバリュエーション(野村証券金融研究所・企業調査部 森田哲史氏)
- 8月 研究開発のパラダイム・シフト(デュポン株式会社先端技術研究所長、株式会社イェットツー・コム・アジア上席顧問 玉川惟正氏) / 学生ビジネスプラン・コンテスト参加報告(東大、一橋大)
- 9月 法律的世界観と科学的世界観(レックスウェル法律特許事務所、弁護士・弁理士 平井昭光氏)

全体セッション

- 10月 ハイテク・ベンチャーの起業（株式会社プロモテック 代表取締役 難波菊次郎氏） / 先端技術の事業化支援（株式会社インスパイア・テクノロジー・リソース・マネジメント代表取締役社長 石井利雄氏）
- 12月 公認会計士から見た知的財産権（中央青山監査法人・ITアシュアランス部・マネージャー、公認会計士 木村章展氏）
- 1月 大学発ベンチャー（日本IBM株式会社ビジネスイノベーション・Netgen Consulting Practiceコンサルタント 藤原善丞氏） / 韓国における産学連携
- 2月 特許教育の現状と課題（大阪教育大学・助教授 片桐昌直氏） / 卒論発表会
- 3月 日米における特許訴訟（ソニー株式会社・カンパニー知的財産部・担当部長、米国弁護士 三浦謙浩氏） / 次年度説明

バイオ分科会

- 5月 日米医療制度の比較
- 6月 医薬開発と遺伝子特許
- 7月 リサーチ・ツールのライセンシング
- 8月 マテリアル・トランスファー
- 9月 知的資産価格の高騰と製薬企業
- 10月 遺伝子診断ビジネス
- 12月 注目判例および特許から考えるバイオ特許戦略
- 1月 欧州のバイオビジネス(ドイツを中心に)
- 2月 バイオテクノロジーの発展と特許制度(均等論を中心に)
- 3月 再生医療における特許戦略

技術移転事例討論分科会

- 学会発表などで公開された技術を事例として、どのような特許出願戦略をとるのか、どのような技術移転計画を立てるべきかについて、技術の特性や応用される産業分野の属性、さらに技術の産業化スキームの属性などを判断して議論を行う。

このような事例による討論の基礎になる知識としては、

- 1) 技術の本質と応用を理解・洞察すること
- 2) 特許法や特許実務に関する知識
- 3) 契約・法務に関する知識
- 4) 当該産業分野の市場構造に関する知識
- 5) 事業企画力

等が要求される複合的な課題である。今年度に関しては、特に技術分野を材料・環境・エネルギー分野に限って討論を行った。

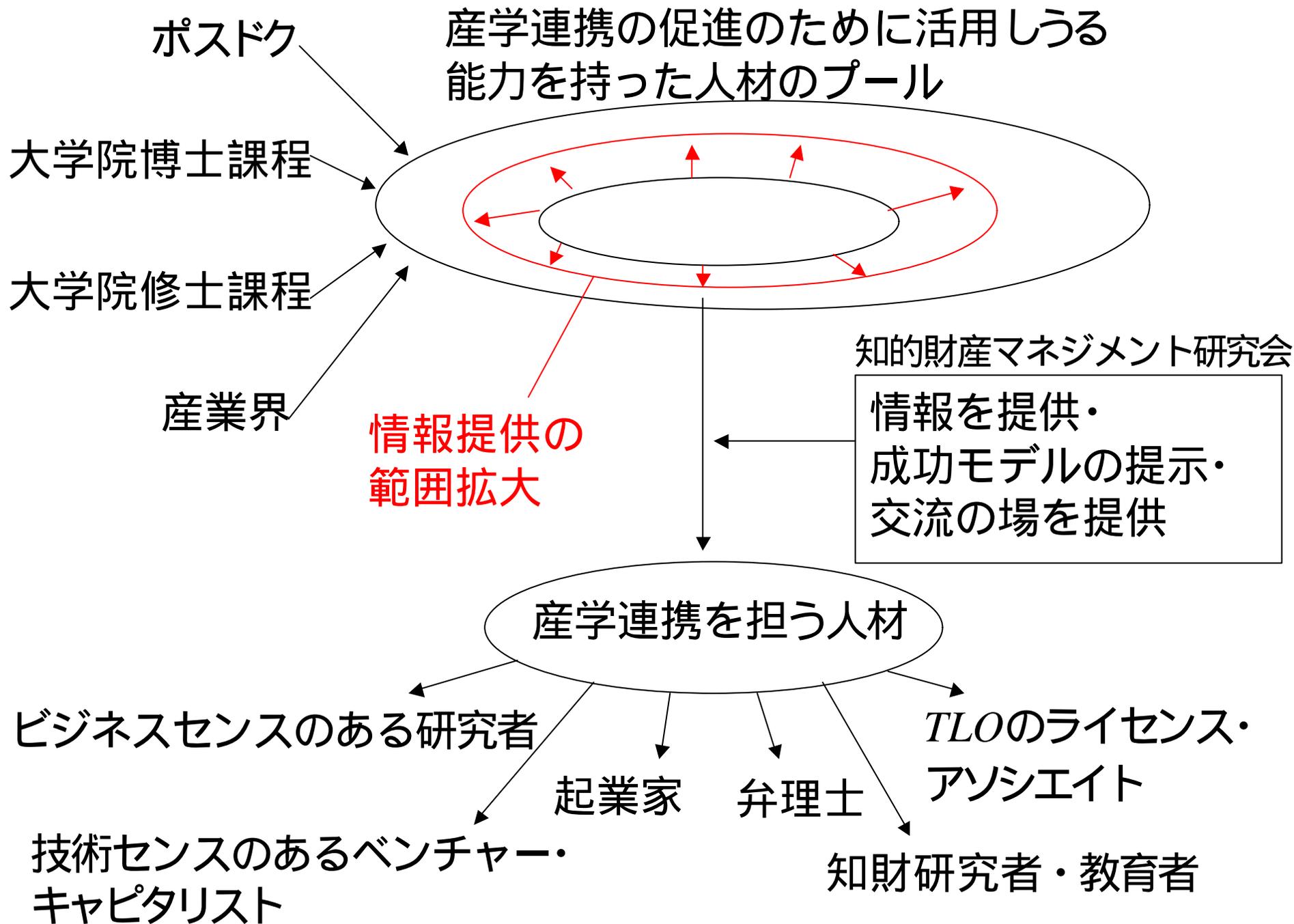
- 事例

錆びない銀の事例

高輝度青色発光の事例（発明に対する報償）

グルコースセンサー（大企業とベンチャーのアライアンス）

ナノテク技術



知的財産マネジメント研究会に 関連する刊行物

- 隅藏康一「本気でとりたい人のためのバイオ特許入門」*Bioベンチャー*誌連載
- 渡部俊也・隅藏康一『*TLOとライセンス・アソシエイト*（ビーケイシー）
- 渡部俊也・山本貴史・戸次一夫・原田努・隅藏康一『*理工系のための特許・技術移転入門*』（岩波）
：作成中。
- 月刊誌『*BIO INDUSTRY*』において、「知的財産マネジメント研究会・バイオ分科会報告」連載中。

知的財産・産学連携ワークショップ

- 2001年11月23日(祝)、24日(土)
- 東京大学駒場リサーチキャンパスにて
- 3会場に分けて、複数のセッションを同時開催
- 参加者：合計278名
- 東京圏以外の学生も招聘(東北大、大阪大、立命館大、静岡県立大など)

東京大学研究者アンケート

西村・山岸・隅藏(2001)

詳細は、後日研究論文として公表予定

- 学部4年生から教授まで1728名が回答
- TLOは何の略であるか知っている 23%
- 起業したいと考えたことがある 34%
- 自分の研究が特許として出願された経験を持つ 17%
- 機会があれば、研究成果を特許化したい 73%
- 産業界の人々が大学で講義をする機会を増やすべきである 86%
- 大学教官がベンチャーの役員報酬や株式によって利益を得るのはよいことである 75%
- 大学教官の兼業可能範囲をさらに広げるべきである 78%
- 産学連携は一時的ブームにすぎない 16%
- ベンチャー創業は一時的ブームにすぎない 27%

メーリングリスト

- メーリングリスト参加者 328名(2002年5月8日)
メール流通量
385通(2001年4月26日 ~ 2002年5月8日)
- イベント開催情報
- 特定のトピックについての意見交換
医療行為に対する特許
地域活性化と産学連携
特許法における職務発明規定のあり方
遺伝子特許
- 海外を含め、東京圏以外の参加者も多い

知的財産マネジメント研究会 ウェブサイト

- *<http://www.smips.rcast.u-tokyo.ac.jp/>*
- 次回の研究会のプログラム
- 研究会メンバーへのお知らせ
- 今後の計画
- これまでの研究会の概要
- 2001年度報告書

知的財産マネジメント研究会 2002年度

- 毎月一回、土曜日開催
- 10:00-12:00 午前セッション
米国特許法・バイオ関連知的財産分科会
- 13:00-14:30 セッション1
イントロダクション(基礎セッション)、ライセンス・アソシエイト分科会、法律分科会、産学連携分科会、を同時開催
- 15:00-16:30 全体セッション
招待スピーチ、パネルディスカッションなど
- 17:00-18:30 セッション2
ベンチャー分科会、バイオビジネス分科会、知識流動システム分科会、を同時開催